

第三條 丙號戰備ノ末項ニ

丙號戰備下令間 敬言戒警報 解除セラル

タル時ハ別命ナク 丁號戰備ニ移ルモノトス

下達法 要旨口達後 印刷交付

配布区分 32A
15A
235A
100FeAs
1Ms
5MM
6MM
340LM
66Ps

原書地密

寫

球作命丁第五三號

第三十二軍命令

十月二十一日 那 霸

一軍ハ現下人の戦力消耗ノ主因タル急性傳染病ノ徹底的防遏ヲ企圖ス

二各兵團(部隊)ハ現狀況ニ即應シ傳染源ノ芟除及傳染経路ノ遮断ニ遺憾ナキ施策ヲ實施スルト

共ニ特ニ丙號戰備以上ノ狀況下ニ於ケル防疫的給水ノ根本對策ヲ樹立スベシ

三第二十七野戰防疫給水部長ハ前項計畫並ニ實施ニ關シ第六十二師團及獨立混成第四十四旅

團ニ協カスベシ
四軍經理部長ハ前諸項ノ衛生施策實施ニ協カス

6LM

五、實施要領ノ細部ニ關シテハ軍軍醫部長ヲシテ指示セシム

軍司令官

牛島 滿

下達法 印刷交付

一、重 點 球作命丁第一五三號ニ基ク軍軍醫部長指示

消化器系統傳染病ノ根絶ニ指向シ苛烈ナル戰鬪訓練作業間將兵カ生水ヲ飲用スルコトヲ基本條件トシ醫學的方策ヲ樹立シ常ニ機先ヲ制シテ慘禍ノ防止ニ努ムルヲ要ス

二、防疫的給水對策
一、軍ハ高度戰備下ニ於テハ雜用飲用ニ生水ヲ使用セシム但シ狀況之ヲ許ス限リ煮沸使用スルモノトス

二、各兵團(部隊)ハ急速ニ地區内就中防衛陣地附近ノ水源調査並ニ檢水ヲ完了シ慮過乃至化學的消毒ニ依ル水源使用ノ方途ヲ講ズルモ

ノトス

3. 濾過ハ衛生濾水機ヲ用フルヲ本旨トシ消毒
ハフクロール石灰及淨水劑ニ依ルモノトシ必
要ニ應ジ濾過消毒ヲ併用スルモノトス
フクロール石灰ハ當初消毒包内容ヲ充用シ爾
餘ハ軍ニ於テ考慮ス

4. 各兵團(部隊)ハ前諸項検査成績ニ基キ防衛陣
地ニ於ケル貯水給水搬水ノ位置方法資材等
ヲ決定シ事前ニ周到ナル準備ヲ完成シ高度
戰備下ニ於ケル防疫的給水ニ遺憾ナカラシ
ムモノトス

5. 檢水ハ精密檢水トシ毒物及細菌検査ヲ主ト
シ遠藤赤變菌數大腸菌密度ノ有無多寡ニ基

キ處置ノ要否ヲ定メ時刻期日天候等要約ニ
從ヒ數回反覆スルモノトシ採水後検査迄
時間ハ二時間以内トス
理化學的検査ハ軍ニ處置上ノ參考トナスベ
シ

6. 水質ノ判定ハ珊瑚礁ニシテ離島タル管下諸
島ノ本質ヲ理解ノ上決定シ必ズ處置ヲ附シ
將兵ノ生水使用飲用ニ根基ヲ置キ左記標示
ヲ嚴ニ勵行スルモノトス

飲用適濾過飲用適消毒飲用適消毒雜用適使
用不適等

三、第二十七野戰防疫給水部長ハ病点檢索檢水ノ
實施給水計畫ニ就キ第六十二師團獨立混成第

四十四旅團ニ協力スルモノトシ其ノ時期方法等ニ關シテハ相互ニ協定スルモノトス又濾水機修理能力ノ培養ニ努メ藥物檢定ノ準備ヲトスモノトス又修理材料ノ補給ニ關シテハ自下申請中ナリ

四、一般防疫處置

1. 避難民ノ現狀ニ鑑ミ病原搬入防止ニ留意シ必要ニ應ジ關係地方側ノ病原檢索豫防接種ヲモ實施スルモノトス
一 一般豫防接種ノ實施ニ關シテハ近ク別ニ指示ス

2. 水系遮断ノ他混蟲撲滅ヲ更ニ徹底セシメ蠅鼠族ニ依ル媒介ヲ遮断スルヲ要ス之カ爲防

衛陣地内厨炊事場ノ構築管理ニ際シテハ本要件ヲ重視シ敵打捕殺或ハ現地物資ヲ以テスル滅蟲法ト相俟テ根絶ヲ期スベシ消毒藥ヲ用ラル殺蟲法ノ如キハ效ナシ
3. 患者早期隔離ノ觀念ヲ昂揚セシムルノ要アリ
4. 爾餘ハ各部隊傳染病豫防規定ニ據ルモノトス

五、地方側ノ處理ニ關シテハ軍軍醫部ヲ經由照會局ニ連繫スルモノトス
六、檢索消毒材料ハ計畫ヲ附シ請求スルモノトシ十一月末迄ニ計畫實施成案ノ概要ヲ軍軍醫部長ニ通報スルモノトス

軍醫部長

篠田重惠

軍事機密

五砲司作命甲第七號

軍砲兵隊命令

十月二十一日

一 軍砲兵隊八軍砲兵統一運用ニ關儀

スル戰鬪準備ヲ強化セシトス

二 五砲司作命甲第二號別紙「陣地構

築要領」附表第二ヲ別紙第一ノ如

ク増補ス

三 輕迫撃第三乃至第十中隊八五砲

司作命甲第二號別紙附表ニ拘テ

官

官

球作命下第ニ四七號

第三十二軍命令

昭和十七年七月二十七日發給

十二月二十五日一八〇〇

奉

官

第三十一野戦兵器廠長ハ球作命下第ニ四七號ニ依ルニ
 移動兵器修理所ヲ並波(系藩)東北地方約一五新及(大
 山)宜野湾西北方約一耕(ニ)適宜開設シ軍兵器部
 ノ企畫ニ基キ開原部隊ト密ニ協定シ上兵器修理
 作業ヲ實施スベシ 開改徴收ニ當リテハ其ノ狀況ヲ
 報告スベシ

軍司令官 牛島 満

下達法 印刷交付
 配布区分 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
 11.5.20 1940 49A 各部

年一六九

球作命甲第九十四號

第三十二軍命令

一月四日〇九〇〇
那霸

軍給泊隊長ハ機不現配置ヲ以テ左記

昭和33年4月米政府返還旧日本軍記録文書等史料経歴票
防衛庁防衛研修所戦史室

表 題	
整理番号	
作成の部隊 庁・個人名等	
作成年月日	明治 大正 昭和
史 料 の 主 内 容	
備 考 (本史料に關 する参考事項 を記す)	
史 料 の 入 手 経 路	本史料は大東亞戦争中米軍が直接戦場で鹵獲し、又は内地進駐後、陸 海軍諸機関から採取した記録文書の一つであつて、長くワシントン郊 外フランコニア等の記録保管所に保管されていたが、米国務省に対す る日本政府の返還要求に応じ、昭和33年3月日本側に引渡され、同年4 月横浜市、同月10日指定保管責任たる防衛研修所戦史室の手に歸し たものである。
責 任 者 名 職 氏	防衛庁防衛研修所戦史室長 防衛庁事務官 西 浦 進

昭和33年5月調査



軍事機密

球作命甲第百三號

第二十二軍命令

二月十日八時
里

12/6

一 軍公魚雷艇自送點状況ニ鑑ミ雷撃戦ヲ準備
ヲ中止シ新ニ海上遊撃戦ヲ準備セントス

二 軍被船隊長自今船舶工兵聯隊ヲ以テ第七船舶
輸送司令部沖繩支部ニ協カシ同地輸送ニ任ゼシ
ルト共ニ速ニ三部ヲ以テ波久地附近ニ主力ヲ以テ與
那原及那霸港附近ニ基地ヲ設定シ其ヲ海上
遊撃戦ヲ準備スベシ

隊長	
供	

高地輸送、細部ニ関シテ其、都度別命ス
 尚在渡久地部隊ノ海上遊撃戦、準備ニ関シテ國
 頭支隊長ノ區處ヲ受クシムベシ
 三國頭支隊長ハ在渡久地艦艇部隊一部ニ海上遊撃
 戦、準備ニ関シテ之ノ區處スベシ
 四、細項ニ関シテハ主任參謀ヲシテ指示セム

軍司令官 牛島滿

下達
 配布
 兼下區處

球作命令第百六號

第三十二軍命令

三月十五日 二〇〇
 里

- 一、諸情報ヲ綜合シテ進ノ敵ハ南西諸島ニ達
 攻メ企圖スルノ算ナリ
- 二、軍ハ直ニ艦艇工兵隊ヲ海上遊撃戦基
 地ニ配置セントス
- 三、軍艦部隊長ハ直ニ一部ヲ渡久地ニ於テ國頭
 支隊長ノ指揮下ニ入ルニ付ト共ニ要力ヲ那覇

港及嶺那原ニ基地ヲ轉移シ海上遊撃戰
ヲ進守備スル

四國頭支隊長ハ在漫久地船舶工兵取隊ノ一部
ヲ併セ指揮シ海上遊撃戰ヲ準備スル

軍司令官牛島滿

下達法 (印刷文様)
配布区分
兼下已處下取

軍事機密

隊長	
(印)	

第三十二軍戰鬥指針

第一號 (二月十五日)

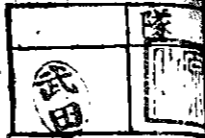
擊敵合言葉 (標語)

一機一艦一船

一艇一船

一入十殺一戰車

貴隊下、指揮下部隊ニ至急徹底相成候



球作命乙第二號

第三十二軍命令

二月十九日一〇〇里

要塞建築勤務第六中隊、第十
九航空地區司令官ノ指揮下
ニ入ルベシ

軍司令官 牛島 満

下達法 印刷交付
配布先 陸軍
IARAB 陸軍

第三十二軍命令

三月二十一日〇九三〇
首里

- 一 航空船舶後方關係諸部隊ハ別冊「地上戦闘」爲航空船舶後方關係諸部隊運用計畫「基キ夫々地上戦闘ヲ準備スベシ
- 二 自今兼城標高八六六高地、錢又屋取、神里南側高地及寄ノ線(含ハ)並ニ兼城及友寄ヨリ各下流國場川、饒波川ノ線(含ハ)ヲ連ヌル地域ヲ軍直轄戦闘準備區域トス
- 三 第三十四、第六十二師團長及獨之混成第四十四旅團長各防衛擔任地域内ニ於ケル戦闘準備ノ細項ニ關シ特設第一及第二旅團長ヲ區處スルコトヲ得

軍司令官 牛島 滿

下達法

印刷交付

配布区介

在沖繩本島地区獨之部隊全部

地上戦闘爲船舶航空後方關係諸部隊運用計畫概論

第一 方針

船舶航空及後方關係諸部隊ノ豫メ地上戦闘ニ便スル如ク編成及
部署ヲ決定シ且其餘カヲ以テ陣地ヲ構築シ作戰ノ進捗ニ伴ヒ本末
在務ヲ完了スルカ若クハ之ヲ遂行シ得ザルニ至ラバ迅速確實ニ地上戰
闘配置ニ移行シ以テ最後迄敵撃滅ニ敢闘ス

第二 要領

一 各部隊ハ其ノ隷下指揮下區處下部隊ヲ以テ地上戦闘ニ便スル如ク歩
兵部隊ニ準ジ速カニ編成ヲ定メ裝備ヲ充實ス
二 地上戦闘移行ニ際シテ航空關係諸部隊ノ大部ハ第六十師團長
ノ指揮下ニ入り沖繩中飛行場ノ制扼ニ同師團主力ノ戦闘ヲ

トナル
加シ船舶後方關係諸部隊ノ大部ハ津嘉山週邊地區ニ陣地ヲ
占領シ軍主陣地帯ノ核心部ヲ保持スト共ニ第一線兵團後據

三 各部隊ノ豫定任務ニ基キ地上戦闘部署ヲ策定シ現任務ノ
許ス限リ餘カヲ以テ所要ノ陣地ヲ構築シ四月十日頃迄ニ應急
ノ態勢ヲ整ヘ爾後之ヲ増強スト共ニ地上戦闘ノ爲メ教育訓練
ニ勉ム

第三 地上戦闘ニ移行参加スベキ部隊ニ其ノ

編成裝備

一 特ニ軍ニ於テ編成スル部隊ニ之ニ編合セラレベキ部隊次ノ如ク之
ガ編成實施ニ関シテハ別ニ定ム

特設第一聯隊

第十九補空地區司令部

第四十四 第五十 第五十六飛行場大隊

第五百二乃至第五百四特設警備工兵隊

敵第一整備隊

要塞建築勤務第六中隊

右各部隊配屬防衛召集部隊

二 裝備

裝備為各部隊二更ニ軍ヨリ一部兵器、彈藥、爆藥等ヲ交
付スベキ其ノ數量僅少ナルベキニ鑑ミ各部隊ハ所在ノ資材ヲ活用シ
其ノ裝備ノ強化ヲ計ルモノトス

第四 各部隊在務及行動

一 特設第一聯隊

一 在伊江島部隊ハ伊江島飛行場破壊強化並ニ航空資材
ノ撤收ヲ續行シ狀況近迫スルニ軍命令ニ依リ首里飛行場

ニ轉移シテ首里飛行場設走ノ協力並ニ飛行場勤務ニ
任ジ地上戦闘ニ際シテハ第六十二師團長ノ指揮ヲ受ク

二 特設第二聯隊主力ハ敵ガ沖縄北中飛行場方面ニ上陸
スルカ若ハ我ガ航空作戰上右兩飛行場ヲ必要トセザルニ至
ラバ軍命令ニ依リ之ヲ破壊シ島袋附近ニ轉移シ第六十二
師團長ノ指揮下ニ入り勉メテ長ク中飛行場ノ剋拒ニ任ズ
三 増加豫定ノ獨之混成第三十二聯隊到着セザル場合ニ於テハ軍

ノ既設陣地ニ據リ勉メテ長ク北飛行場ノ剽劫ニ任ズ

二 左記部隊ハ第六十二師團長ノ區處下ニ首里附近ニ於テ戰
鬪ヲ準備シ戰鬪ニ際シテハ同師團長ノ指揮下ニ入ルモノトス
左記部隊中軍主陣地帯外ニ在ル部隊ハ彼ノ首里附近
ノ轉移ヲ準備ス其ノ轉移ノ時機ハ軍命令ニ依ル

左

記

第五野戰航空修理廠第一分廠

第三獨立整備隊

第一百十八獨立整備隊

航空路部沖繩管區

陸軍氣象部沖繩觀測所

第二十六對空無線隊

第二十一航空通信隊

第五 教育訓練

各部隊ハ其ノ實情ニ鑑ミ特ニ精神教育ヲ重視シ決死
敢鬪楠公精神ノ堅持昂揚ニ勉メ術科教育ニ於テ特
ニ左記諸件ニ重點ヲ置クヲ要ス

一 對敵車肉攻

二 夜間挺進ノ斬込

三 急速ニ哨壘陣地ノ構築

(豫メ堅固ナル築城ヲ實施シ得ヤル部隊)